

## ◆◆◆◆◆ 第6次草津市総合計画の将来ビジョンの検討 ◆◆◆◆◆

## 第6次草津市総合計画での方向性の検討《4つの視点》

●第6次草津市総合計画の計画期間中には、本市においても**人口減少社会**を迎えるとともに、**少子高齢化**がさらに進行していく中、コミュニティの希薄化、社会保障費の増大、社会資本の老朽化などをはじめとするあらゆる分野で**課題が多様化・複雑化**していくことが見込まれます。

●こうした社会情勢の変化などを見据えながら、総括評価でも現在高く評価されている**“住みよさ”**を維持・向上させるとともに、これまでの取組や課題を踏まえつつ、**市民とともに“将来の目指すべき姿”**を長期的な展望に立って検討する必要があります。

●これらを踏まえると、**本市の持つ強み**（立地特性を最大限に生かしたまちづくりを進めてきたことにより、住みやすいまちとなり、いまなお人口が増加していることなど）に**一層の磨きをかける**ことで住みやすさを維持・向上させるとともに、市民が将来に描くまちの姿のキーワードとして挙げられた**“つながり”や“やさしさ”**があるまちづくりを進めることにより、**人と人のつながりや思いやり**（地域共生社会、地域防災など）、**まちのつながり**（コンパクトシティ・プラス・ネットワークなど）が創出され、人口減少や少子高齢化が進行することで生じる諸課題にも柔軟かつ適切な対応が可能となり、次世代にこの住みやすいまちが受け継がれ、**“誇りや愛着”**も醸成されていくものと考えます。

●以上のことから、第6次草津市総合計画での方向性を次の**4つの視点**で整理します。

## 視点1：本市のもつ強みに一層の磨きをかけていく

《市民・高校生・転入者アンケートなど》

## 視点2：人と人のつながりや思いやりの醸成

《高校生アンケート・市民会議・地域別懇談会・中堅職員など》

## 視点3：ネットワークが充実したさらに暮らしやすいまちづくり

《地域別懇談会など》

## 視点4：“誇りや愛着”の醸成

《総括評価など》

## 総合計画特別委員会・総合計画審議会での主な意見

## 【総合計画特別委員会】

- 人と人のつながりについては、多文化共生等の視点での多様性も重要である。
- 将来ビジョンを検討する上では、個別化の視点も重要である。

## 【総合計画審議会】

- 人と人のつながりはとても重要な視点である。
- 市の強みだけでなく、市の弱みを補完する視点も重要である。**
- やさしさやつながりなどの視点も重要だと思いが、活力など、これからも市が発展していくという挑戦的な視点も重要である。**
- 市が発展していくための産業振興の視点も重要である。**

## 第6次草津市総合計画の方向性のまとめ

第6次草津市総合計画での方向性として整理した「4つの視点」について、総合計画特別委員会・総合計画審議会での意見を踏まえつつ、より具体的な方向性を次のとおり示します。



## 《視点1》

本市のもつ強みに一層の磨きをかけていく



## 《審議会等での意見》

これからも市が発展するよう挑戦していく

## - これからのまちづくりの方向性 -

本市は“住みよさ”について高い評価を得ていますが、今後、人口減少局面を迎えるとともに少子高齢化が進行すると様々な課題が顕在化してきます。

将来においても、この“住みよさ”を維持しながら、本市がさらに発展していくためには、これまでのまちづくりの歩みをとめることなく、これら諸課題に果敢に挑戦していかなければなりません。

先人たちが築いてきたこのまちを次世代にしっかりと継承するため、新たな思いを胸に、“つながり”を大切にしながら、未来を一步ずつ切り拓いていきます。

ありがとう



## 《視点2》

人と人のつながりや思いやりの醸成

## 《審議会等での意見》《視点3》

産業振興の視点

ネットワークが充実したさらに暮らしやすいまちづくり

ひと  
- 人々のつながり -

人と人との「出会い」から生まれる“つながり”を大切にし、つながりの輪を育み、絆を深めることで、やさしさと思いやりの心が育まれます。

また、人と“つながる”ことで、心も身体も健康となり、元気が溢れ、笑顔が輝きます。

そして、人の“つながり”は、地域へと広がり、活気に満ち溢れたまちとなっていきます。

まち  
- 地域のつながり -

まち地域の魅力や資源を結び、“つながり”が生まれることで、活力が溢れ、まちが発展していきます。

また、誰もが住み慣れた地域で快適に暮らせる生活環境を整え、まちの中に“つながり”をつくることで、将来にわたって“住みやすい”まちとなっていきます。

とき  
- 時代のつながり -

様々な“つながり”を紡ぐことにより、“住みやすい”まちは、親から子へ、子から孫へと受け継がれていきます。

そして、わたしたちの“住みやすい”まちは、将来にわたり、誰からも愛され、住み続けたいまちとなっていきます。

## 《視点4》

“誇りや愛着”の醸成

